

1 事業内容等

教育活動区分	⑥観光資源の共同開発・PR
教育活動テーマ	湯来町活性化プロジェクト
連携する市町	広島市佐伯区湯来町
連携する企業・団体等	湯来観光地域づくり公社、フジトシ食品、認知症カフェ、 自家焙煎豆専門店 MOUNT COFFEE

2 事業の趣旨

本事業は、広島市佐伯区湯来町の地域資源に高校生の視点で向き合い、その魅力や価値を整理し、発信することを通して、地域の活性化につなげることを目的としている。湯来町は、豊かな自然環境や温泉といった魅力ある資源を有する一方で、人口減少や若年層が地域に関わる機会の少なさといった課題も抱えている。

本プロジェクトでは、地域の実情を学んだ高校生が主体となり、調査・企画・発信といった一連の活動に取り組むことで、地域内外に新たな視点を提供し、関心を高めるきっかけを生み出すことを目指している。あわせて、地域と関わる実践的な活動を通じて、探究的な学びを深めるとともに、生徒一人ひとりの実践的な力を育むことも、本事業の重要な目的としている。

3 取組の経緯

(1) 発足の背景

令和6年3月に実施した湯来町でのフィールドワークを通じて、生徒は地域の方々との交流や自然環境を実際に体験した。その中で、湯来町が持つ魅力と同時に、地域が抱える課題にも触れ、高校生として地域にどのように関わることができるのかを考えるきっかけを得た。この経験が、その後の活動の出発点となっている。その後、区役所や地域団体との意見交換、広島市議会での提案発表などを行う中で、地域側からも前向きな意見や期待の声が寄せられたことから、単発的な取組にとどめず、継続的な活動として発展させていく必要性が生まれた。

(2) 組織化の過程

広島市議会での提案発表後、行政関係者や地域事業者、観光団体などから多くの助言を受けた。特に、「活動の継続性」「提案内容の実現性」「地域ニーズの丁寧な把握」といった観点が重要であるとの指摘を踏まえ、湯来町活性化プロジェクト（通称：湯来プロ）として活動を正式に組織化した。以降は、学年間の縦割り体制を導入し、役割分担の整理や定例会の実施、活動記録の共有など、活動を支える基盤づくりを進めてき

た。これにより、個々の取組が積み重なり、継続的に地域と関わる枠組みが形成されつつある。

4 令和7年度の主な実施内容

(1) 現地フィールドワークの継続

令和7年度も湯来町における現地調査を複数回実施し、町内の事業者、温泉施設、観光拠点などを訪問した。実際の現場に足を運ぶことで、インフラの状況や来訪者の動向、事業者が直面している課題等について理解を深める機会となった。また、本校生徒を対象とした体験ツアーを生徒自身が企画・実施し、地域の魅力を後輩に伝えるとともに、今後の活動を支える担い手づくりにもつなげた。ツアー運営にあたっては、移動計画の作成、関係者との調整、現地での安全確認、参加者アンケートの実施など、多岐にわたる業務を分担しながら進めた。

(2) 地域行事への参画

ホテルまつり、ユルマル湯来珈琲まつり、湯来あかりプロジェクト、認知症カフェなど、町内で行われる地域行事に複数回参加した。各行事では、運営補助や司会進行、来場者対応、会場設営、インタビューの実施などを担当し、地域活動の一員として関わった。こうした継続的な参加を通じて、地域住民との交流の機会が増え、活動への理解や信頼が少しずつ深まっていった。特に湯来あかりプロジェクトでは、点灯式の企画・運営に関わり、事前準備から当日の進行まで幅広く携わった。

(3) 学校行事（文化祭）を活用した特産品販売

学校の文化祭において「湯来プロ cafe」を出店し、湯来町内の事業者から仕入れたジェラートやヨーグルト、加工食品、コーヒーなどの特産品を販売した。発注数の検討、納品調整、衛生管理、会計処理、値札やPOPの作成、販売動線の工夫など、店舗運営に必要な一連の作業を生徒主体で行った。販売後には売上データを整理し、人気商品の傾向や適正価格、来場者が多い時間帯などを振り返り、今後の活動に生かすための材料とした。

(4) 独自商品の企画・開発

令和7年度は、独自商品の取組としてオリジナルブレンドコーヒー「湯来プロブレンド」の企画・開発を行った。自家焙煎豆専門店 MOUNT COFFEE と連携し、湯来の自然をイメージした香りや味わいについて意見交換を重ねながらブレンドを検討した。あわせて、商品ロゴやパッケージデザインにも取り組み、文化祭での「湯来プロ cafe」および MOUNT COFFEE で販売する機会を得た。

(5) 広報・発表活動

広報活動として、Instagram アカウントを新たに立ち上げ、「湯来の魅力紹介」「活動報告」「商品紹介」の3つのテーマに沿って投稿を行った。現状では投稿数は9件、フォロワー数は約100名であり、SNS運用は初期段階にある。また、探究学習の一環として校内外の発表会に参加し、本活動の経緯や内容について発表する機会を設けた。

活動を振り返りながら言語化する過程を通じて、説明力や論理的に整理する力を高める機会となった。

5 成果

(1) 地域連携の深化

会があり、活動を通じた信頼関係が徐々に広がってきた。地域イベントにおける役割の拡大や新規相談の増加は、高校生の取組が地域活動の一端を担う存在として認識されつつあることを示している。また、地域住民との関わりが日常的に生まれたことで、生徒が地域の課題や背景を主体的に捉えやすい環境が整ってきた。

(2) 教育的効果

活動を通じて、生徒は計画立案、交渉、企画運営、記録整理、課題分析、情報発信など、様々な力を実践の中で身につけることができた。特に、地域事業者とのやり取りや商品管理に関わる経験は、教室内では得がたい実社会に近い学びにつながった。また、後輩への説明やツアー運営を担当する場面では、伝え方を工夫する姿勢や、メンバーを支える視点が生まれ、リーダーシップや人材育成への意識を高める機会となった。

(3) 学校内波及と認知の拡大

体験ツアーの実施を通じて活動への関心が高まり、参加を希望する生徒が増えるなど、校内での認知が広がった。あわせて、SNSを活用した情報発信により、活動の様子が校外にも少しずつ伝わり始めている。文化祭での取組は多くの来場者の注目を集め、生徒の主体的な姿勢や活動内容に対して好意的な評価を得る機会となった。

6 課題

(1) 計画性の向上

活動内容が幅広いことから、年間・月次・週次の三段階で計画を整理し、見通しをもって取り組むことが重要である。役割分担を明確にし、活動の流れを共有することで、よりスムーズな運営体制づくりが今後の課題となっている。

(2) 効果測定の体系化

SNSは運用開始から間もない段階にあるため、まずは投稿数や反応、フォロワーの増減といった最小限の指標を定め、それらを継続的に記録・整理していくことが課題である。記録頻度や算出方法、投稿テーマや形式、曜日・時間帯などの整理を行い、週次での振り返りと月次での確認を通じて、少しずつ数値で状況を把握できる体制を整えていきたい。また、イベントや販売活動との関係についても、来場者への簡単な聞き取りをしながら連動を把握する工夫が求められる。

(3) 継承体制の強化

活動が特定の個人に偏らないよう、マニュアルの作成や議事録の形式統一、引継ぎ面談の実施などを通じて、継承の仕組みを整えていくことが課題である。学年間での連携

をより深め、活動の内容や工夫が次の学年へ自然に引き継がれていく体制づくりが求められる。

7 次年度方針

(1) 地域協働の強化

既存イベントへの運営協力を継続するとともに、地域の方々との対話を通して、新たな共同企画の検討を進めていく。あわせて、地域のニーズを引き続き把握しながら、若年層も参加しやすい取り組みの形を模索していく。

(2) 広報戦略の改善

SNS 運用については、投稿数の増加と継続的な発信を基本としつつ、分析ツールを活用した振り返りを行っていく。発信頻度や投稿時間、写真の構成などを少しずつ検証しながら、指標を意識した運営に取り組み、より効果的な情報発信を目指す。

(3) 継承体制の確立

活動内容や進め方を整理したドキュメントの整備を進め、次年度から参加するメンバーも安心して活動に関われる環境づくりに取り組む。引継ぎや共有の機会を大切にしながら、学年間で活動がつながっていく体制を整えていく。

(4) 商品・体験開発の深化

オリジナルブレンドコーヒーの取り組みを踏まえ、地域資源を生かした新たな販売商品や体験コンテンツのアイデア出し・検討を継続する。地域の方々の意見も参考にしながら、実現可能な形を探っていく。

8 総括

本事業では、地域調査と実践的な活動を重ねながら、湯来町の魅力に向き合い、その発信や活用に取り組んできた。生徒が主体となって活動を進める中で、地域の方々から理解や協力を得る場面も増え、少しずつ継続的な関わりが生まれてきたことは、本取組の大きな成果の一つである。一方で、活動の記録や効果の把握、継承の仕組みづくりなど、今後に向けた課題も明らかになった。次年度は、これらの点を意識しながら振り返りと改善を重ね、地域と共に成長していく持続的なプロジェクトとして、取組を発展させていきたい。

活動の様子



定例会の様子



湯来町関係者との意見交換会



文化祭における湯来町ブース出店



湯来町フィールドワークの様子



探究発表会の様子



湯来あかりプロジェクト点灯式の様子



湯来西公民館で活動報告会



マイプロジェクトアワード広島 summit 発表